

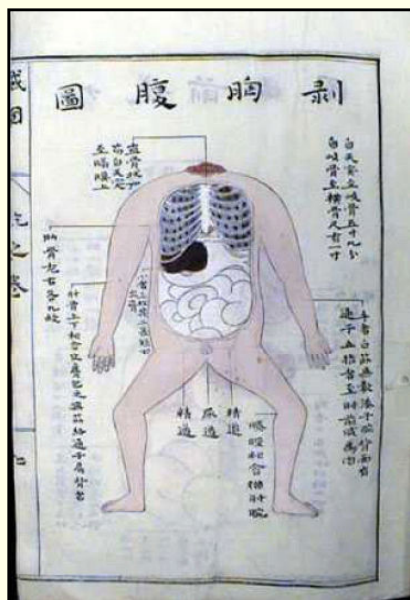
神原文庫に見る

31th香川大学医学部祭

日本の近代医学の夜明け

日本の近代医学は、1754年（宝暦4年）、山脇東洋が京都所司代の許可を得て、日本で初めて、死刑囚の解剖、観察したのに始まる。山脇東洋は1759年（宝暦9年）にはその成果を解剖図録「蔵志」として刊行した。

山脇東洋の解剖に触発され、腑わけを見た杉田玄白と前野良沢は、中川淳庵とオランダ語解剖学書「ターヘル・アナトミア」の翻訳を決心し、様々な苦労の後に、1774年（安永3年）に「解体新書」を発刊した。



山脇東洋著「蔵志」より

今回は神原文庫中の「蔵志」と「解体新書」などを中心に展示し、日本の近代医学に貢献した人々と、その活躍を紹介する。



杉田玄白ら著「解体新書」扉絵

神原文庫とは

香川大学初代学長神原甚造氏が、終世にわたって収集された約1万2千点からなる蔵書コレクションである。昭和29年に、同氏他界のあと香川大学に引き継がれ、図書館で保管・公開を行っています。

開催日

10月9日(土)・10日(日)

場所

香川大学医学部
講義棟2階 小講義室 D

時間

10:00~17:00 (入場は16:45まで)

主催

香川大学図書館



香川大学図書館医学部分館

木田郡三木町大字池戸1750-1

TEL: 087-891-2085

<http://www.kms.ac.jp/~libin/index.htm>